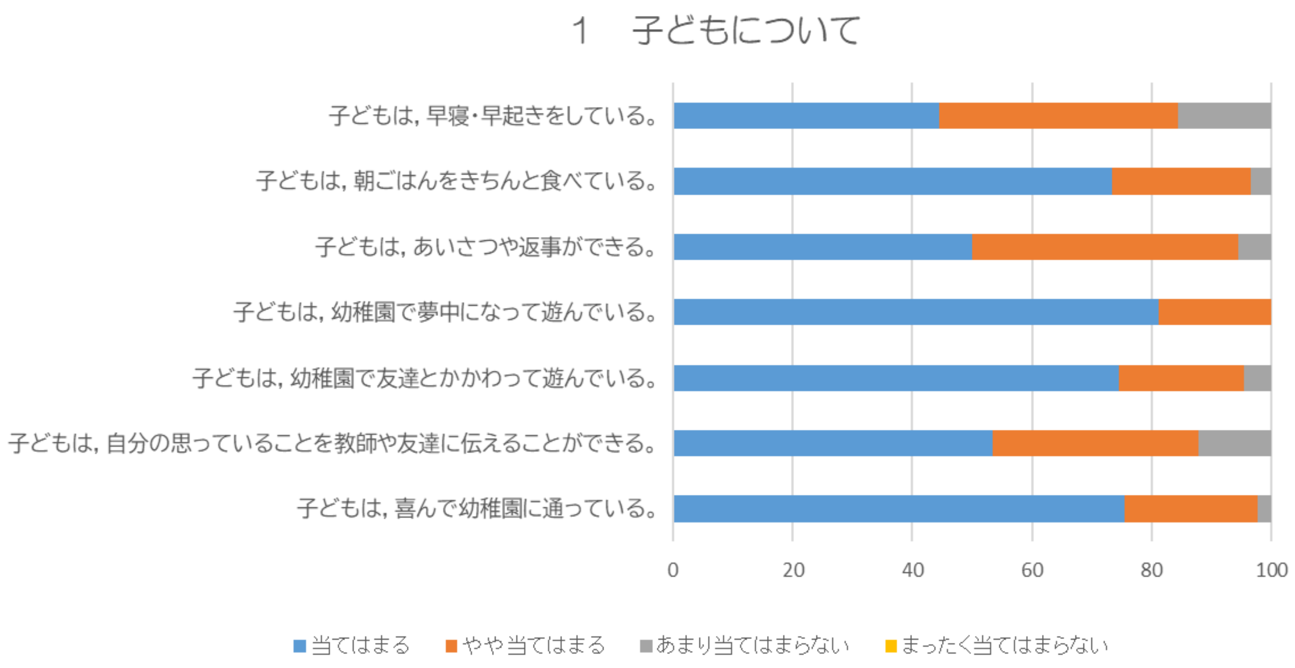
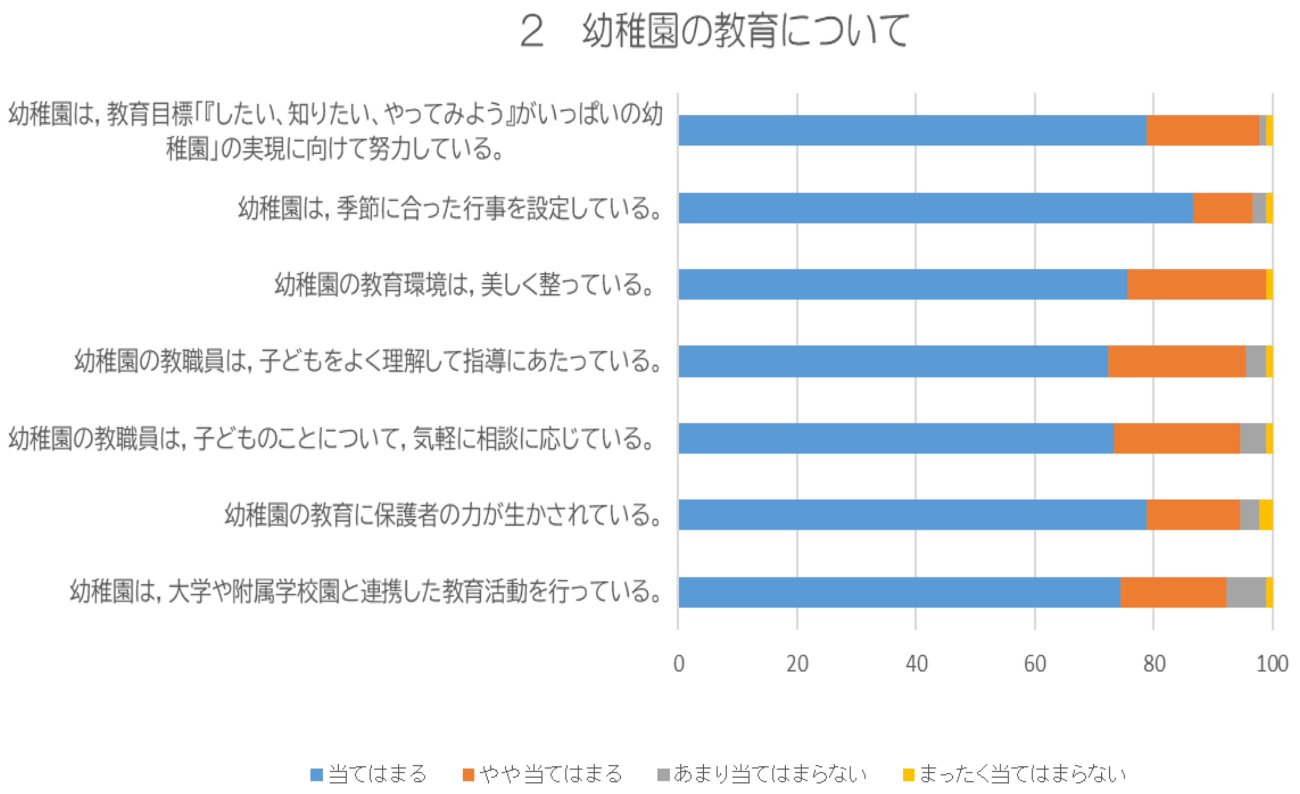
# 令和4年度学校評価アンケート（保護者）集計結果




- すべての質問項目において、高い評価が得られており、まったく当てはまらないと答えた保護者はいなかった。

- 「早寝・早起き」、「あいさつ・返事」の質問では、「当てはまる」と「やや当てはまる」の回答がほぼ同数であり、「あまり当てはまらない」と答えた保護者の数も多かった。このことから、早寝・早起きに関しては、時間の目安や方法、早寝・早起きによるメリットなどを保護者に伝え、より取り組みやすくしていかなければならない。あいさつや返事に関しては、登園時や降園時、保育中など、職員から子どもたちへ積極的にあいさつをし、あいさつを交わす心地よさを感じさせていく必要がある。

- 「自分の思いを他者に伝える」という質問でも「やや当てはまる」の割合が高かった。現在、集まりの時間を使って、楽しかった遊びや友達と関わって楽しかったことなどを全体の前で発表する取り組みをしている。今後も継続し、自分の思いを伝えることに充実感を味わわせたい。また、保育の中でも、子どもの言動から思いを読み取り、気持ちを引き出すなど力を入れていきたい。

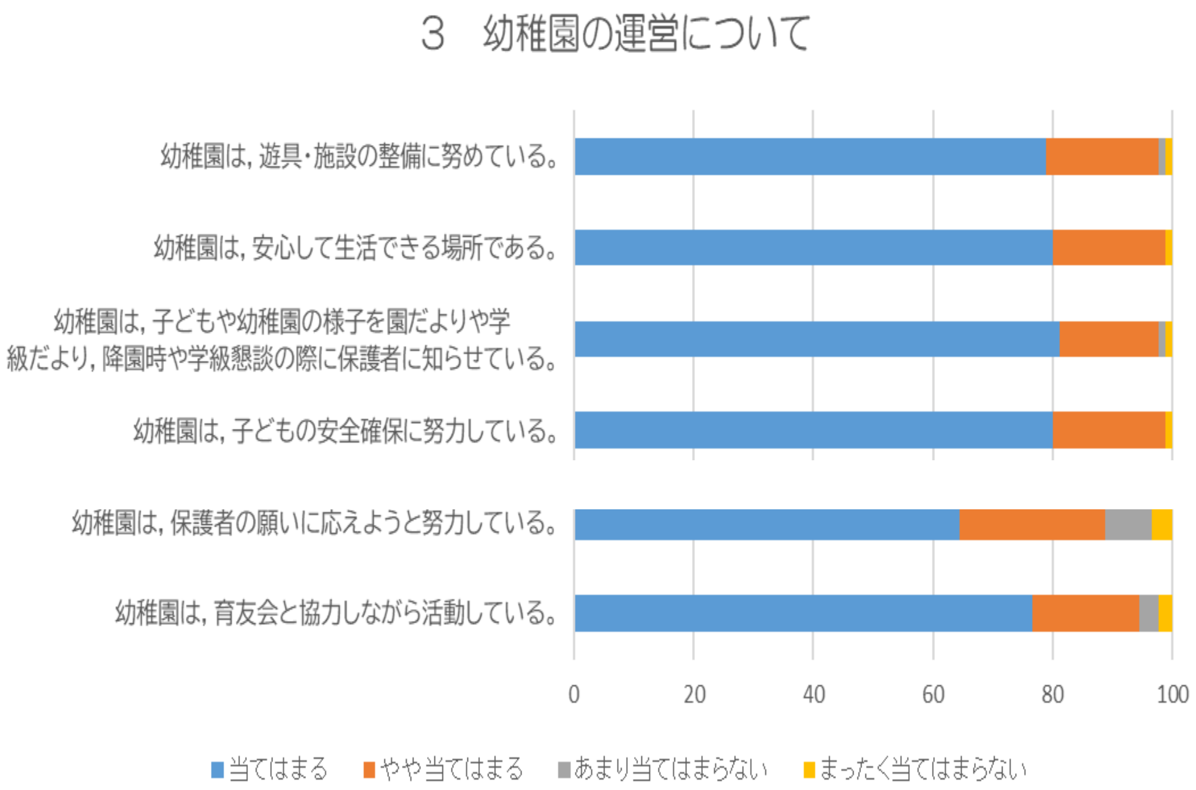



- すべての質問項目において、「当てはまる」が８割に届くほど高い評価が得られている。

- 特に、教育目標の実現に向けた取り組みと教育環境について高い評価を得ており、本園の取組が保護者の皆様に伝わり、理解していただいていることが分かる。

- 一方、「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」と答えた保護者もわずかではあるが見られる。そのように回答した保護者の思いをくみ取り、双方が納得できる解決案を模索したり、できる限り実現できるようにすることが必要だと考える。

- 大学や附属学校園との連携は取り組んでいるのだが、それが十分に伝わっていないことと、保護者が望む連携の在り方が実現できていないことの二つが考えられる。来年度はさらに、大学の専門性を保育に取り入れることを計画している。
  保護者の望む連携の在り方を把握することも必要であると考える。




- ほとんどの質問項目において、「当てはまる」が８割に届くほど高い評価が得られているが、「保護者の願いにこたえる」という項目では６割強にとどまっている。また、まったく当てはまらないと答えた保護者もわずかではあるが見られた。

- 「保護者の願いにこたえる」と「育友会との協力」についての質問は、「あまり当てはまらない」、「まったく当てはまらない」の割合が他の質問に比べて多かった。保護者が具体的にどのような願いをもち、それが実現可能か検討する必要がある。また、検討結果については保護者にフィードバックし、双方が歩み寄れるような方法を探っていく必要がある。また、育友会活動については、育友会側の意見を聞き、育友会との連携を強化していく必要がある。

- 一方で、園の取組のねらいや意図が十分に伝わっていないということも考えられる。今後も保護者の皆様に理解していただくことができるよう、対面での話や通信等を通じて伝える努力を重ねていきたい。